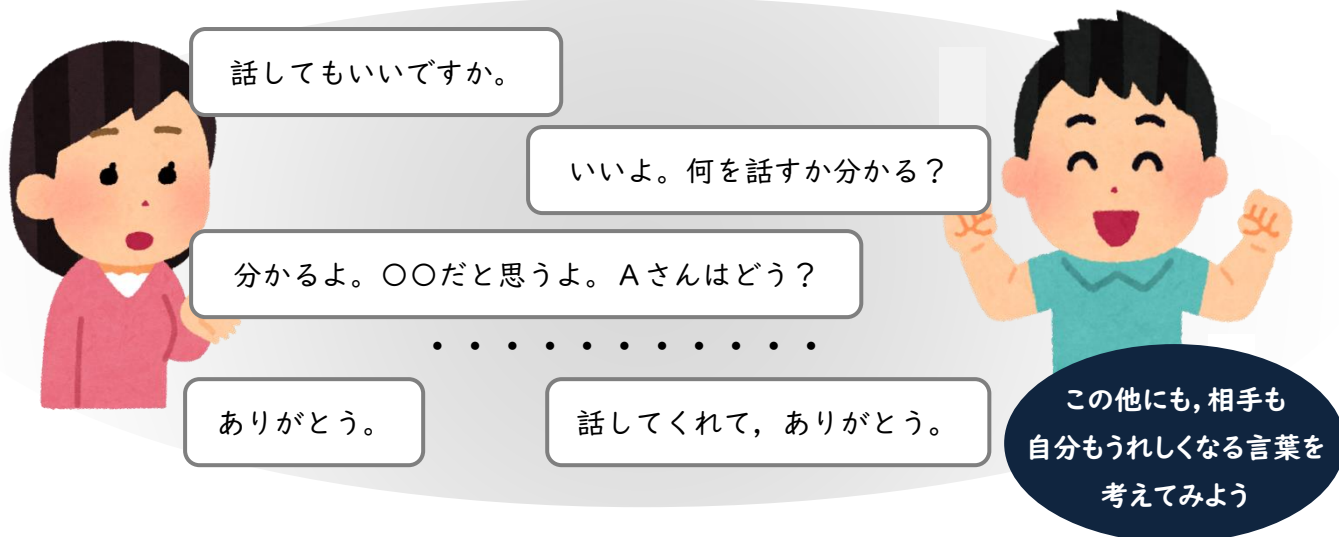


認める・安心

考える部便り No.4

ペア学習は「相手がいるからこそ」できる

ペア学習を授業者が指示すると、すぐに自分の意見を伝え合います。授業者が「話し合いをやめましょう」と合図すると、伝え合っていた子どもたちは体の向きを授業者に向けて、全体指導を再開するシーンはよく見られます。そこに、相手を思いやる言葉やポジティブなメッセージを加えることを3年前から紹介しています。ペア・グループ学習は、一人ではできません。相手がいるからこそできます。相手を尊重する気持ちや多様な考え方を受け入れる寛容さを育むきっかけを設けたいです。



令和3年答申教育課程部会における審議のまとめでは、「協働的な学び」について以下の通り記載されています。

探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要である。

「あらゆる他者を価値のある存在として尊重すること」を子どもたちと共有することが「協働的な学び」を円滑に進める基盤になると考えます。また、大事なことは、上記の話型をどのように学級に取り入れていくかです。できたら、なぜこのようなやり取りが大事か、どんな言葉で声を掛けたらよいか考える活動後に取り入れた方がより効果的だと考えています。

ペア学習で話がまとまった後は、どうしていますか。まとまった話を先生に伝えることや、他のペアと交流をすることなどの選択肢を子どもたちに事前に伝えることもよいと思います。